

北海道生まれの通年ゼロエネ「呼吸する換気口」

流行のトリプルデミツクも換気で予防 国交省住宅局長賞受賞で全国的評価も



写真は最も一般的な GMS-100(丸形)の「グッドマン換気口」(1基税別 17,800円、設置工事費は別途)

現在、全国で大流行しているインフルエンザ、新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎。これらの同時流行はトリプルデミツクと呼ばれているが、その対策としてコロナ禍中でも重要視されていた換気に、今一度関心を向けるべきだろう。ただ定期的な窓の開け閉めによる空気の入れ替えは、冬が寒い北海道にとってはな

なか大変だ。また機械による24時間換気もメンテナンスの必要性や稼働音の大きさ、外部動力を常時稼働させていることによるエネルギーロスといった課題ある。そもそも窓を閉じたままゼロエネルギーで、常に空気の入れ替えが行なわれるのが理想だろう。



高気密、外断熱、空気の流れを確認できるグッドマンショールーム

それを実現しているのが、(有)グッドマン(本社札幌市)が手掛ける「グッドマン換気口」。約17年前から発売されているロングセラーの換気口だ。大きな特長のひとつは、キャッチコピーにもある「呼吸する換気口」という点。



このQRコードではクラスター対策を前面に打ち出した特設サイトを確認できる

同品は設置するだけで、外部動力を用いないゼロエネルギー自然吸排気により外から新しい空気を取り込みつつ、煙突効果で室内上部の空気をこもらせることなく排出している。「換気口から外気の寒さが入ってくるのでは?」といった心配も不要。冷気が入ってくる現象をダウンドラフトと呼ぶが、過去に地方独立行政法人北海道立総合研究機構が「グッドマン換気口」と、通常の換気口とでダウンドラフトの発生状況を調査しており、その報告書で「グッドマン換気口」は通常換気口よりも冷気の流入が非常に少ないことが示されている。

換気は元より、結露対策に大変有益なもの「グッドマン換気口」の大きな強み。常時自然の力で温度差・風力換気が行なわれることで、結露発生が大幅に抑えられ、それ由来のカビの発生も抑制できる。以前、「グッドマン換気口」取付け後の結露状況について利用者アンケートを行なったことがあったが、その結果は非常に良くなった・良くなったの回答が約85%を占め、悪くなった、の回答はゼロだったという(ほかは、変わらな

たという(ほかは、変わらない、の回答)。これまで触れてきた以外にも室内の二酸化炭素(CO₂)濃度を大きく低減させる効果や、「生活臭や煙草のにおいもいつの間にか消えている」と話す設置主も。

公的団体も同品を高評価。平成24年度に北海道経済産業局「省エネ・新エネ大賞」、同25年度に第10回エコプロダクツ大賞奨励賞、同29年度発明協会会長賞、令和7年度「北のブランド2025金賞」。令和5年には日本建築材料協会主催の「理想のすまいと建築フェア」で国土交通省住宅局長賞を受賞した。

同品の詳細はグッドマン、もしくは販売を担う(株)日浦に問い合わせしてほしい。

■(有)グッドマン・ショールーム
札幌市中央区南4条西14丁目1-24

☎011・563・0744

<http://www.kankko.com>

■(株)日浦 札幌市白石区本通7丁目南7-25

☎011・864・0177